

御塚講

吉田を歩く

吉田小学校を過ぎ県道106号線を多古方面に向かった左側、蒲野台の林の中に共同墓地があります。そこに「御塚」と呼ばれる供養塔がまつられていて、2月23日に「御塚講」が行われています。

供養塔は高さ約80cm、正面に「日賢聖人」と「日泰大徳」の2人の日蓮宗僧の名と年号が刻まれています。

日賢は関東の檀林で学んだ後、指導的地位で活動したものの宗門内部対立の結果、1630(寛永7)年に遠州横須賀(静岡県)へ流罪となり、



吉田地区蒲野台にある共同墓地にまつられた「御塚」

藩主預かりとなりました。日泰は南並木村(多古町)生まれとされる不受不施派の僧で、周辺村での活動が知られています。

不受不施派は幕府から禁止された宗派で、200年近くにわたり、千葉県内では多古周辺の香取郡内の村々などで隠れる形で僧侶と農民らの信仰活動が続ききました。

不受不施派では幕府の対応を「法難」と呼んでいます。数度の法難の中で1691(元禄4)年の法難では、江戸と下総国で捕縛され、伊豆

諸島に流罪となった僧は80人余りとされています。このうちの十数人が市域での活動が確認され、日泰も含まれていました。日泰は神津島(東京都)に流罪となり、その年の暮れに亡くなりました。

供養塔には、元禄11年2月24日と刻まれていて、この日に塔をまつたと考えるのが妥当でしょう。

吉田村での不受不施信仰は、禁止されていたにもかかわらず約60人の内信者が知られ、1840(天保11)年の法難では、村人13人と頭妙寺僧侶が取り調べを受けました。塚の上には「御塚の松」と呼ばれた樹齢400年を越えるという松の太木があって、その根元に供養塔がまつられていたといわれます。

衰えた大木を切り、1957(昭和32)年2月24日に蒲野区(吉田地区)の御塚講により整備されました。区の10人余りによる講中では、御塚講という題目講を開き320年前からの供養を続けています。

(市文化財審議会委員)

依知川雅一

関秘書課広報広聴班

☎73・0080